

小林靖彦の資料研究

—ミクロの視点から見た日本の精神医療の歴史—

小林ひとみ

愛知県立大学大学院国際文化研究科

小林靖彦(1919-2007)は、千葉県に生まれ、1944年に名古屋帝国大学医学部卒業。専攻は精神医学。日本医史学会にも所属していた。名古屋に住み、精神科の医師であり同時に、精神医学史の研究を続けた。1963年には、著作『日本精神医学小史』(中外医学社、1963年)を出版した。この著作は、数少ない日本の精神医学の歴史を扱う貴重な書である。

この本が書かれた昭和30年代から、『日本精神医学の歴史』(〈現代精神医学大系〉第1巻A 精神医学総論I(別冊)中山書店、1979年)が出版された昭和50年代にかけて、小林は“精神医学史”の研究を精力的に行っている。上記の著書の背後には大量の資料が存在しており、とりわけ精神病者の治療所の歴史に力を注ぎ、全国各地を調査し続けた。そしてその時期に残された、記録や写真等は、小林が調査に赴いた時には存在していたものが、今の時代には見ることができないものもあり、それらは精神医療史における歴史的建造物を写したす証拠品として貴重である。小林はこれを彼独自の分類方法で、写真、彼の直筆による内容に関する記述、それに関する資料の切り抜きが1冊ずつのアルバムにまとめられておりその数は数十冊に及ぶ。

それを愛知県立大学の橋本明氏が御遺族から譲り受けることになった。この資料を整理して目録を作ったが、以下はその目録の項目別である。(※項目の1~26は小林靖彦自身の分類によるアルバムである。また27~40に関しては未整理状態の資料で、演者がその項目名を付けたものである。)

- 1.「精神病治療史 2 灸法、薬物療法、(吐方)、精神療法、按摩」
- 2.「精神病治療史 3 鍼治、灸治、按摩」
- 3.「精神病治療史 4 和漢薬、淋水禱神、灸治、民間療法、皇漢医学の批判と衰退、漢方薬」
- 4.「温泉療法史総論1」
- 5.「温泉療法史総論2」
- 6.「精神病の温泉療法2」
- 7.「明治前精神病患者治療所」
- 8.「京都における精神医学史的散歩1」
- 9.「京都における精神医学史的散歩2」
- 10.「京都府療病院」
- 11.「阿波井島保養院 鳴門」
- 12.「山梨」
- 13.「長野(2)精神医学関係施設」
- 14.「石川」
- 15.「富山」
- 16.「福井」
- 17.「愛知県精神医学史風土記2」
- 18.「愛知県精神医学史風土記6」
- 19.「愛知県精神医学史風土記7」
- 20.「愛知県精神病院史(3)前篇 2 名古屋大学その2 精神病患者慰安所、名古屋脳病院、東山脳病院、東山寮、八事脳病院」
- 21.「愛知県の精神病院(2)」
- 22.「愛知県の精神病院(3)」
- 23.「愛知県の精神病院(4)」
- 24.「名古屋の精神医学史 戦後編2」
- 25.「岐阜県 岐阜の医学」
- 26.「静岡」
- 27.「愛知関係資料」
- 28.「江戸時代の精神医学 2 治療論」
- 29.「日本精神医学史 附表」
- 30.「小林靖彦現地調査前の記録1(貴重書類)」
- 31.「小林靖彦現地調査前の記録2(貴重書類)」
- 32.「小林靖彦現地調査前の記録3(貴重書類)」
- 33.「小林靖彦未整理写真」
- 34.「小林靖彦が収集した資料集(未整理)その1」
- 35.「小林靖彦が収集した資料集(未整理)その2」
- 36.「小林靖彦が収集した資料集(未整理)その3」
- 37.「歴史 小林靖彦 SCRAP BOOK」
- 38.「小林靖彦未整理資料(緑のファイルその1)」
- 39.「小林靖彦未整理資料(緑のファイルその2)」
- 40.「小林靖彦 経歴」

明治維新後の日本の精神医療の現場において、西洋の治療法は常に良いものとされ、一方古くからごく当たり前に行われ、人々を支えていた“滝治療”、“民間薬”、“加持祈祷”などは批判の対象となった。そして見えないものとして覆いをかけられてしまった。資料としてほとんど残っておらず、むしろ消し去られようとしている。だが、その見えないものにこそ真価がある。それにいちはやく気づいた人物として“小林靖彦”は注目に値し、彼の残した資料を見つめ直す事で精神医療の歴史の空欄を埋める事になるだろう。